

持続可能な開発目標（SDGs）と児童労働

世界の共通目標「持続可能な開発目標(SDGs)」とは

- 貧困、不平等・格差、気候変動のない持続可能な世界の実現を目指し、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに達成することを目指した国際目標。
- 17の目標（ゴール）と169のターゲットが設定されている。
- キーワードは”地球上の誰ひとり取り残さない（leave no one behind）”
- 発展途上国だけではなく先進国も取り組むべき目標として、世界中の国々の行動を求めている。

<SDGsの17の目標>



児童労働と SDGs



目標8「働きがいも経済成長も」のターゲット7（以降「目標8.7」）に、



「2025年までにあらゆる形態の児童労働を終わらせる」＝児童労働を世界からなくすことが記載されています。またこの目標8.7には、強制労働、人身売買、現代的奴隷制度についても、撤廃を目指すことが明記されています。ACEもこの取り組みに賛同し、2025年までに児童労働をなくすことを目指して活動しています。

目標8.7以外にも、児童労働を無くすためには多くの目標の達成が必要です。以下の目標に関連したACEの児童労働撤廃のための取り組みについて、簡単にご紹介します。



貧困は児童労働の原因のひとつです。ACEは困窮家庭への学用品の支給や、職業トレーニングなどを通じた収入向上支援を実施しています。また、健康保険等の社会保障制度が住民に浸透していないことも多いため、必要な支援を受けられるようサポートしています。



この目標には「小規模農家の所得の向上」や「生産性を上げながら災害などにも強いレジリエントな農業」も掲げられています。ACEはカカオ畑やコットン畑の小規模農家の収入向上支援や、コットン畑でのオーガニックコットン栽培の推進などをおこなっています。



ACEは児童労働から子どもを救い、教育につなげることを目指して活動しています。学校内の教育環境（教室、備品など）の改善や、教員トレーニングの実施などを通じて、教育の質を高める活動をおこなっています。

5 ジェンダー平等を実現しよう

インドの活動地では「女の子は教育を受ける必要がない」という考えが根付いていたり、法律では禁止されている児童婚が慣習として残っていたりする状況があります。現地での啓発活動や女の子のエンパワーメント支援を通じてジェンダー平等を推進しています。

12 つくる責任 つかう責任

原料の生産から商品の販売まで すべての段階において児童労働のない製品を企業が生産、販売するよう働きかけています。また、消費者が「児童労働のない製品を支持する」声をあげるよう、消費者教育の普及やエシカル消費の推進をおこなっています。

16 平和と公正をすべての人に

目標 16 には「子どもに対する暴力の撤廃」が含まれています。日本国内でも子どもへの暴力（虐待、いじめ等）をなくす取り組みを推進するよう、政府に働きかけています。また、インドの活動地ではプロジェクトを通じて住民間のカースト差別が解消されました。

17 パートナリシップで目標を達成しよう

ACE は設立当初からパートナーシップを重視してきました。NGO、労働組合、企業、消費者、政府など様々なアクターと協働してきた経験があり、20 を超えるネットワーク組織に加盟し、力を合わせて児童労働撤廃に取り組んでいます。

